

No.2847

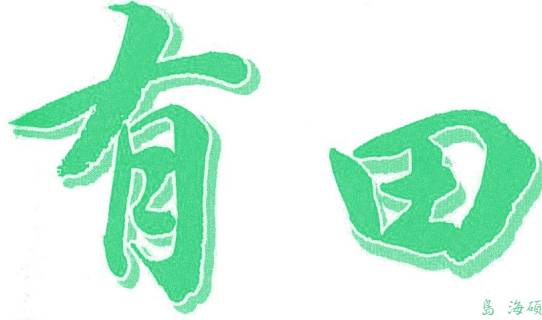
2017-2018年度

会長 成川 守彦

幹事 橋本 拓也

R広報委員長 應地 正章

担当：松村委員



島海碩書

第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
 例会場 紀州有田商工会議所6F
 事務所 〒649-0304
 有田市箕島33-1
 紀州有田商工会議所2F
 有田ロータリークラブ
 Tel (0737) 82-3128
 Fax (0737) 82-1020

創立 昭和34年6月15日
 ホームページ <http://www.aridarc.jp>
 e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



2017-2018年度クラブ方針

ロータリーを知ろう

～温故知新～

次回のお知らせ



本日のプログラム

平成29年10月19日 第2848回

・前期IDMの発表

・ソング：「ROTARY」

平成29年10月26日 第2849回

・外部卓話：御前 明良 氏「上山英一郎氏と先見性と功績 —除虫菊栽培の創始と蚊取り線香の発明—」

・ソング：「It's a small world」

前回の報告（第2847回例会）

開催日 平成29年10月5日(木)

点鐘 (成川(守)会長)

ゲストの紹介 (上野山(捷)親睦活動委員長)

ゲスト:武本 泰子 様(ロータリー米山記念奨学会)
 ビジター:山本 佳弘 君(2640地区 米山記念奨学委員会委員長)、神谷 尚孝 君(2640地区 米山選考小委員会委員長)

米山奨学生:董 涛 君

ゲスト(ご夫人出席):橋爪美智代さん、石垣よしみさん
 岩橋逸子さん、成川恵美さん、中村有香さん
 中元礼子さん、上野山美知子さん、上野山千穂さん
 脇村佳世子さん

米山奨学金授与



10月の米山奨学金が、成川(守)会長より、董涛君に授与されました。

ニコニコ箱の報告 (中元SAA)

成川(守)君:本日の月見夜間例会に会員ご家族の皆様、米山記念奨学会の武本様、地区米山記念奨学会の皆様、ようこそお出で下さいました。

橋本君:武本泰子様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話よろしくお願ひ致します。

山本佳弘君(田辺はまゆうRC):よろしくお願ひ致します。

宮井君:武本泰子様、卓話ご苦労さんです。本日の月見例会楽しく過ごさせていただけます。

川口君:武本泰子様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話宜しくお願ひ致します。

中村君:武本様、ようこそ有田RCへ。卓話楽しみにしています。

嶋田(ひ)君:お月見雲がすこしの間なくなるといいですね。

児島君:武本先生、本日はようこそ有田RCへ。卓話楽しみです。

嶋田(崇)君:武本さま、卓話有難うございます。

橋爪(正)君:武本様、御多用の中、お越し下さいましてありがとうございます。お月見も楽しんでください。

木本君:菅原様、児嶋様、ご入会おめでとうでございます。武本様、卓話宜しくお願ひします。

上野山(捷)君:本日のお月見例会に大勢の方が出席下さいましてありがとうございます。

脇村君:武本さん、本日の卓話よろしくお願ひします。

松村君:武本様、有田RCへお越し下さりありがとうございます。

井上君:武本様、ようこそ有田RCへ。

橋爪(誠)君:武本様、ようこそ有田RCへ、遠い所へお越し頂き誠にありがとうございます。本日の卓話、勉強させて頂きます。また、地区の米山記念奨学委員会、山本様、選考小委員会、神谷様、ご出席ありがとうございます。

本日もEnjoyロータリーしましょう。
石垣(洋)君:武本先生、ようこそ有田RCへ、よろしくお願
いします。
中元君:例会運営委員会、親睦活動委員会の皆様、月
見例会の準備、ありがとうございました。

出席報告 (脇村例会運営委員)

本日の会員数31名
(出席規定免除会員9名)
出席会員数24名
(出席規定免除会員7名)
82. 76%
9/21 92. 86%
MU: 嶋田(ひ)君

会長の時間 (成川(守)会長)

「指名委員会委員指名」「米山月間」「IDM」

本日は、会員のご家族をお
迎えての「お月見夜間例会」
です。9名のご夫人をお迎えし
ています。又、ゲストのロータ
リー米山記念奨学会の武本泰
子さん、遠路、有田までお越し
いただきありがとうございます。
その上、地区の米山記念奨学
委員会 山本委員長、米山選
考小委員会 神谷委員長 よう
こそお越しいただきました。会員の皆様とともに、今宵ひ
と時、お箏と尺八の演奏をお楽しみください。



先ず、今年度の年次総会は12月14日です。
有田ロータリークラブ細則
第3条 選挙と任期
第1節

- (1) 理事・役員を選出すべき年次総会の1カ月前の例
会において、その議長たる役員は会員に対して、会長
(次々年度)、直前会長、副会長、幹事、会計、会場監
督(SAA)および5名以内の理事を指名することを求
めなければならない。その指名は、クラブの決定する
ところに従って行うことができる。
- (2) 会長は、会長経験者を指名委員会委員に任命
し、会長と会長経験者で指名委員会を構成する。指名
委員会委員長は原則として、直前会長とし、直前会長
なき場合は順次遡るものとする。
- (3) 指名委員会委員長はただちに指名委員会を開催
し、本節(1)の役員・理事候補者を選出する。

に従い、少し早いのですが、今日、その指名委員会委員
を指名させていただきます。

「有田ロータリークラブ細則に従い、会長経験者を指名

委員会委員に任命し、会長と会長経験者で指名委員会
を構成させていただきます。委員長は、松村直前会長に
お願いいたします。12月14日に滞りなく選出されますよ
う、よろしくお願い申し上げます。

●米山月間(Yoneyama Month)

日本のロータリーでは、毎年10月を「米山月間」と定め
ています。クラブはこの月に、特に米山奨学事業の意義
を深く認識し、寄付金を募る活動を行います。そのために米
山奨学生や地区役員・委員の卓話を聞き、更に奨学会
から提供される資料をもとにクラブフォーラムを開催したり
することが推奨されています。

昨年は、私が、10月6日に、橋爪正芳例会運営委員長
の指定卓話で、DVDとPPTを使って、話をさせていただきました。
今日は、公益財団法人 ロータリー米山記念奨
学会から、武本 泰子氏にお出でいただきました。よろしく
お願い申し上げます。

●米山記念奨学会(Rotary Yoneyama Memorial Foun- dation Inc.)

「公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会」は、勉学
または研究のために来日し、わが国の正規の学校または
研究機関に在籍する外国人留学生に対して奨学金を支
給し、彼らの留学の目的を支援するとともに、ロータリー
の理想とする国際理解と親善に寄与することを目的とす
る。

事業内容:奨学金の支給/世話クラブとカウンセラー制
度/ロータリアンと奨学生との交流/国内外の学友会活動
(豆辞典より)公益財団法人ロータリー米山記念奨学会を
参照のこと。

詳しくは、武本さんから、お話をいただきます。

ところで、次週は、例会は休会で、「IDM」(Informal
Discussion Meeting 家庭集会)が開催されます。有田
RCでは、「IDM」と呼んでいますが、昔は、「炉辺会合」
(Fireside meeting)と言われていました。

●炉辺会合(Fireside meeting) (ロータリー情報ハンド ブック)

1935年頃に、新入会員にロータリー情報を提供するた
めに始められたものですが、その後、シカゴクラブがこれ
を取り入れて、大きな成果を修めたことから、世界的に広
まっていきました。

通称「炉辺会合」と言われた集いは、名称に「家庭集
会」(Informal Meeting、Home Meeting) 「情報集会」
(Informed Group Meetings、あるいはInformation meet-
ing)などと変遷があり、現行では、この言葉そのものが「手
続要覧」には見られなくなっています。実体として、クラブ
によってさまざまな名称で集会が行われています。

炉辺会合は新会員の同化、および会員間の親睦と情
報交換、そしてロータリーを推進するために、会員の自
宅その他に少人数が集まって和やかに自由討論する非
公式な会合であります。有田RCでも、20年ぐらい前まで
は、各家庭で開催していました。

(私のガバナー月信「ロータリーあれこれ」より)

1990年、炉辺会合 Fireside Meeting は、家庭集会 Informal Discussion Meetingと改称されましたが、古い会員の方は未だに炉辺会合に愛着を覚えておられるようがあります。家庭集会は、新会員の同化、及び会員間の親睦と情報交換、そしてロータリーを推進するために会員の自宅その他に少人数が集まって和やかに自由討論する会合のことです。家族との理解と親睦を深めるためにも推奨されているプログラムであります。

<ファイアサイド・ミーティングの発祥> (1966年「Golden Strand」Oren Arnold 著 田中 毅 訳)

1937年、シカゴ近郊のハイランド・パーク Highland Park の新居に引っ越したハーブ・アングスターと妻アグネスは、近所の人を誰も知りませんでした。しかしこの街にはハイランド・パーク・ロータリークラブがあって、ハーブはその例会に一、二度に出席しことがありました。

そこで彼は、シカゴ・ロータリークラブの事務局に電話をして、ハイランド・パークに住んでいるすべての会員のリストを知らせてくれるように幹事に頼みました。その結果、少なくとも12名が住んでいることが分かりました。

そこで、彼は日付を決めて、それらの会員たちをロータリーの集会として我が家に招待しました。シカゴ・ロータリークラブとハイランド・パーク・クラブの会員がこれに応じてくれました。参加者は、新しい大きな暖炉の燃え盛る炎の前に、余分の椅子を運び込み、楽しい夕べの一時をおくりました。

ハーブは、こう述べています。「私は、しばらくの間、ニース Nice で開かれた最近のロータリー国際大会について話し合ったことを覚えています。私たちがフランス人の会長を持つことなど、誰が想像したでしょうか？しかし、私たちはモーリス・ジュペレー Maurice Doperrey を会長にして、ロータリーの輪の中心を、旧世界 Old World に移したのです。」「そして、その夜の会合は皆にとって極めてなごやかな楽しみだったので、シカゴ・クラブから来た私のゲストが、すぐに彼らの家庭で、ロータリアンの会合を開き始めたのです。私たちはそれをファイアサイド・ミーティング Fireside Meetings と呼んでいました。」

これらの人気の高い会合は、シカゴ・ロータリークラブを喜ばせました。どんな会員が自分の家に招待しても、何人でも集まることのできたし、ある時は夫人同伴でありました。話題は、男のファッションや、先験哲学からピーナッツの栽培に至るまで、すべての事柄でした。

1964年には、25,000回にも及ぶファイアサイド・ミーティングが、世界中のロータリーの家庭で開催され、シカゴだけでも数十回に及びました。

幹事報告 (橋本幹事)

1. 地区大会への参加を申請しました。19名の参加です。
2. 地区大会に関するご連絡で、物故会員(浅井修一郎君)の報告を行いました。
3. 有田川クリーン作戦を地区大会における自クラブの活動紹介で申請しました。

4. ロータリー米山記念奨学会より、来年2月4日開催の財団創立50周年記念式典への参加につき、満席による受付終了のお知らせが届きました。

5. 公益財団法人米山梅吉記念館より、新役員の案内が届いています。成川(守)会長が理事に選任されました。

6. 和歌山県福祉保健部長より、麻薬・覚醒剤乱用防止運動の開催案内が届いています。井上社会・青少年奉仕委委員長に渡します。

7. 本日開催の第4回定例理事会について

<報告事項>

①2016-2017年度国際ロータリー第2640地区会計報告(幹事)

②2016-17年度決算書類開示請求及び問題点指摘について(幹事)

③地区大会(11/4-5開催)について(幹事)

④新入会員研修会の日程について(幹事)

<審議事項>・・・以下の議案の審議が行われすべての案件が承認されました。

①10、11月の例会プログラム(例会運営委員会)

②9月試算表(会計)

③新会員(原さん)の委員会所属:親睦活動委員会(幹事)

④ミャンマー国際奉仕事業について(国際奉仕委員会)

⑤11月9日のニコニコ箱は、「ミャンマー地区補助金事業」に(会長)

⑥ひとり一本植樹事業について(社会青少年奉仕委員会)

⑦9月入会の新会員のメンターについて(幹事) 菅原君のメンターは成川(守)会長、児嶋君のメンターは嶋田(崇)副会長

委員会報告

*情報・研修委員会(脇村委員長)

10/12、10/13のIDM、出席よろしくお願ひします。

*米山記念奨学会委員会(松村委員長)

橋本君より特別寄付をいただきました。

卓話

<武本泰子さんの紹介 紹介者:橋本拓也君>

本日の卓話者「武本泰子様」のご紹介をさせていただきます。

武本様は、1991年3月共立女子短期大学をご卒業され、三菱銀行(現:東京三菱UFJ銀行)に入行され、丸の内支店で外国業務課に勤務されました。退職後、1998年12月、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会に入職され、2008年3月末に退職するまでの9



年5か月間、経理担当として寄付の集計や奨学金の支給を担当されました。同じ年の2008年4月からご主人のお仕事の関係でアメリカ カリフォルニア州 サンディエゴに約5年間駐在されました。帰国された2013年4月から公益財団法人ロータリー米山記念奨学会に復帰され、学務と学友関係のお仕事を担当されています。

昨年(2017年)の11月9日に私が東京タワーの近くのロータリー米山記念奨学会の事務所を初めて訪問した時に武本さんにお会いしました。私が有田RCで董濤君のカウンセラーとして活動していることなどでアドバイスを頂きました。その時私と武本さんに色々なつながりが有ることが分かり驚きました。武本さんの元上司米山記念奨学会の事務局長の坂下さんは私の東燃時代の経理財務部門の仲間、また、武本さんのお住いは、私が東京時代に住んでいた石川台、ご近所だったのです。武本さん、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

「世界に平和の種をまく」



公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会
事務局
学務・学友担当

武本 泰子 様

米山奨学事業は、日本のロータリーの黎明期を支えた大先輩たちの手で作られ、脈々と受け継がれてきた日本のロータリー独自の事業です。戦後の復興へと向かい始めた当時、「二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に貢献したい」という、当時の日本のロータリアンたちの強い想いがありました。

その時代背景を見ると、当時の日本のロータリアンたちのその思いを伺い知ることができます。第二次世界大戦中、『ロータリークラブは一部の新聞で「米国のスパイ」呼ばわりされたうえ、米山梅吉氏が軍当局に呼び出され、ロータリーの存在は「大日本帝国に対する反逆である」とまで極言されるに至った』と東京ロータリークラブのホームページに書かれています。1940年9月11日、「奉仕の理想はあくまでも堅持したい」と梅吉氏が最後の挨拶をし、東京ロータリークラブが解散したのは、誕生してちょうど20年がたったときでした。

1945年に終戦を迎えてすぐに、国際ロータリーへの復帰運動が始まりますが、復帰できたのは1949年。悲願の復帰を見ることなく、梅吉氏は1946年にこの世を去ります。享年78歳でした。一方、アメリカでもポールハリス氏が1947年に同じく78歳で亡くなり、世界中から追悼の寄付がロータリー財団に集まり、国際奨学金制度が始まります。

同じ頃、日本でも米山梅吉氏の遺徳を讃える事業を始めたいと検討がされていました。そして、当時の東京ロー

タリークラブの会長、古沢丈作氏が1952年に発表したのが「米山基金」構想です。当初から、留学生支援のプログラムだったのです。敗戦国である日本が、戦後すぐに日本人でなく留学生の支援を始めたことを、ある学友は「利己ではなく、利他の精神である」と言っています。「利他の精神は日本人から学んだ最も尊いものだ」と。

米山奨学事業の使命は「将来、日本と世界とを結ぶ『懸け橋』となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成すること」です。これは国際奉仕事業であり、人材育成事業です。この事業の醍醐味もまた彼らの成長にあります。

東京ロータリークラブで1952年に立案された「米山基金構想」が60年以上続き、今でも、留学生支援ひとすじに日本全国合同奉仕活動となっていることは、他に類を見ない偉業です。日本のロータリーが世界に誇れる事業です。その規模は国内民間最大級。これまでに支援した学生は125の国と地域から19,808人にのぼります。そしてこの留学生支援事業は1967年に財団法人化され、2017年7月1日に50周年を迎えますが、この記念すべき年に支援累計は2万人を超えます。有田ロータリークラブでこれまでに世話いただいた学友は6名です。

ロータリーには「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉がありますが、米山奨学事業では、寄付額が増えれば採用できる奨学生数が増加し、世話クラブが増え、結果として理解促進につながり、さらに寄付額が増える、という良いめぐりを目指しています。

奨学生は、9割以上を「指定校推薦制度」によって採用されます。地区の米山記念奨学委員の方々が、指定校を決め、そこから推薦された学生をさらに地区の面接官の皆さんが選考しています。学校の担当者を集め、あるいは学校に出向いて、「ロータリー米山記念奨学金で支援したい学生像」を伝えます。大学から推薦された学生をロータリアン自身が面接選考し、選び抜かれた学生たちが皆様の元にいる董濤さんをはじめとする奨学生たちです。2017学年度は全国で793名、2640地区では17名を支援しています。

この奨学金事業の神髄は世話クラブ・カウンセラー制度です。寄付がどのように使われているか、また、有効に使われているかについても、奨学生と実際に触れ、彼らを親日家・知日家に育てられるかにかかっています。この事業の成功の鍵はロータリアンの皆様おひとりおひとりが握っているのです。

ここで、2640地区で世話になったふたりの学友をご紹介します。

一人目は朴貞子さんです。(パクテイコ 中国 2006-08年 大阪府立大学 世話クラブ:岸和田RC)今は東京米山友愛ロータリークラブの会員となり、地区の学友副委員長にもなっています。奨学生の際に2640地区で経験した、高校生との交流事業に参加した感動を他の学生にも味あわせたいと、東京でも小平高校国際交流事業をスタートさせ、毎年60名ほどの奨学生や学友が参加する継続事業として大成功させています。彼女は2016年、待望

の米山カウンセラーとなりました。「一緒に活動すること、向き合って話をすることが真の交流」と話し、できるだけ奨学生の心に寄りそうようにしています。それは「与えることこそが与えられることであり、与えることが人の真価だと思うから」と語ります。

二人目は李吉鎔さんです。(イキリョン 韓国 1997-99年 大阪大学 世話クラブ:貝塚コスモスRC)1970年生まれの彼は韓国で「愛国教育」=反日教育を受けて育ちましたが、来日後、受けてきた教育が真実ばかりでないと感じ、自己の存在意義にまで疑問が出て、苦しい日々を過ごしていました。退学を考えるまで思い詰めたが、そのとき支えたのがカウンセラーの松岡さんです。松岡さんと一緒に苦難を乗り越え、博士号も取得して留学を成功させ、今は中央大学校アジア文化学部の教授として教鞭を執りながら、「民主化のための全国大学教授協議会」のメンバーとなり、韓国の社会・教育改革を目指しています。

カウンセラーの松岡さんは言います。「重要なことは、お世話をする期間中に、どれだけ心のふれ合いができるかだと思います。どこまで対等につきあえるか。奨学生側の理解を求めるばかりでなく、我々も奨学生の母国の状況や立場を学ばなければ、通じる話も通じません。米山に関わる以上、その努力は絶対に必要だと思っています。」

元米山奨学生たちは「学友会」というネットワークを作り、ロータリー精神を引き継いで活動しています。今、米山学友会は日本に33、海外に9つあります。(台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴル、スリランカ、マレーシア、ミャンマー)ベトナムでは定期的に奉仕活動をしている米山学友達があります。

台湾と韓国では、日本からの留学生に奨学金を支給しています。米山記念奨学事業と同様、奨学生にはカウンセラーがつき、物心両面から支援します。また、ある学友は母国で高校や日本語学校を設立し、卒業生を日本に送り出しています。その中から新世代の米山奨学生が誕生しています。このように、日本のロータリーから受けた恩は次世代への「恩送り」として実践されているのです。

ある大学教授は言います。「本来の奨学金制度の目的は日本ファンをつくることです。」「日本ファンを海外に作るということはODA以上に意味があると私は考えています」

また、タイのピチャイ・ラタクル元RI会長(2002-03年)も当時、「日本のロータリアンが1万人を超える留学生を支援し続けてきたのは驚くべきことであり、アジアに誇れるプログラムだ」とおっしゃっています。

日本を留学先に選んでくれた優秀な外国人留学生を、親日家や知日家に育てて、また世界へ放つ。米山奨学事業は人材育成事業です。すぐに結果が出るものではありません。奨学金を支給するだけの奨学金、「可哀想だから施す」という救貧型の奨学金ではないのです。ロータリアンが寄付をして資金面を支え、相応しい留学生をロータリアン自ら選考し、物心両面から支援する知的国際貢献型奨学金です。ロータリアンの、ロータリアン

による、ロータリアンのための国際奉仕事業です。継続することにこそ意味があります。彼らを導き、見守り、共に成長を喜べる人材育成事業なのです。

卓話謝辞 (成川(守)会長)

どうもありがとうございました。米山記念奨学会についてわかりやすくお話しいただいたので、ご家族の皆様も「ロータリーは良いことをしているのだなあ」とご理解いただいたことと思います。

武本様は、米山記念奨学会では奨学生を担当されています。スライドで紹介していただきましたが、有田RCはこれまで6名の奨学生を支援してきました。一人目のアディカリ・パドリ・ナート君(1985.4~1986:ネパール)は、私がガバナーの時に「岩村記念病院」建設に協力してくれました。現在アメリカにいます。三人目の買尼沙汗・買買堤(2006.4~07.3:中国)さんは、故・川村会員や橋爪正芳君がいろいろとお世話してくれました。四人目のドゥワル・スルヤ・キラン君は堺市にいます。六人目が董涛君で、カウンセラーの橋本君が会員事業所の訪問など積極的に支援してくれています。

寄付に関しては、2640地区は、20年前はトップ1、2位でしたが昨年は11位でした。

(謝礼をお渡ししましたが、これはクラブからの米山記念奨学会への寄付にいただきました。)

閉会・点鐘 (成川(守)会長)



有田南ロータリークラブ10月のプログラム

10/17(火)	外部卓話：紀陽銀行 千旦晶美氏
10/24(火)	外部卓話：近畿農政局 地域食品課長 宮路典彦氏
10/31(火)	会員卓話：中善隆君・赤田修己君

有田2000ロータリークラブ10月のプログラム

10/18(水)	外部卓話：豊田泰史氏 (地区戦略委員長) 「地区戦略委員会の方針について」
10/25(水)	外部卓話：竹中詩穂氏 (2016-2017年度青少年交換長期派遣生)

～お月見夜間例会 懇親会の様子～

邦楽演奏グループ「織音（オリオン）」の皆さんのステキなお箏と尺八の演奏を楽しみました。

